# 第５回　松田町総合戦略審議会　議事録

１．日　時　平成 28 年 2 月 23 日（火）10:00～12:00
２．場　所　役場３階　防災対策室
３．出席者　委　員：別紙「委員等名簿」のとおり（村山委員欠席）
　　町　側：別紙「委員等名簿」のとおり（町長、参事ほか）
　　事務局：政策推進課（吉田課長、椎野課長補佐、柳澤係長、矢口主査）
４．配付資料
・次第
・松田町まち・ひと・しごと創生　人口ビジョン・総合戦略案（資料１）
・参考資料：第４回　松田町総合戦略審議会議事録

---

【概要】
司会進行（吉田課長）
１．開　会
２．会長あいさつ
３．町長あいさつ
４．議　事
(1)　松田町人口ビジョン（案）について
・事務局（政策推進課）より本会議での配布資料の確認を行う。
・前回（1 月 22 日）の審議会での主な意見の概要についての説明を行う。
・前回の審議会開催以後での計画策定に関わる町の動きについての説明を行う。
事　務　局：人口ビジョンについては、前回概ね了承いただいたところだが、分かりやすくするための微修正をしたい。目標値 1 万人に影響は出ないが、社会移動の内訳で 25 年後（平成 52 年）に±０を目指すとしていた推計上のものと、政策的な社会増分を合わせていく内容。そうすると総体的な社会移動は、８年後（平成 35 年）に増加していくことを見込むこととなります。
久郷副会長：関連して P31 のポイント②の表現も変更が必要と思われる。
事　務　局：併せて修正する。

(2)　松田町総合戦略（案）について
・事務局（政策推進課）より松田町総合戦略（案）についての説明を行う。
飯野　委員：ＫＰＩの設定に表現の違い（年度等）があるが、意図はあるのか。
また、戦略に記載しないまでも、庁内において各年度の目標を設定されてみたらどうか。
事　務　局：項目によって統計値等の事情があり、原則外のものを表記している。
西田　委員：P40 子育て支援のＫＰＩで「待機児童」を将来的にも「0」とする場合には、今後の人口増加に対応した表現を示してはどうか。
また、P43 健康診査受診率のＫＰＩで見込む具体的な効果は想定されているのか。
事　務　局：年少人口は増加でなく維持を目標としている。将来的な人口推計では 400 人程

度まで落ち込むものを、政策的な取り組みも含めて 1100 人程度と目標設定した。ただし、保育ニーズは高くなってきている。これは質・量ともに確保していくことが必要。
健康診査受診の目標ついては、数値として示しており、具体の効果について議論は深めていない。

高須　委員：ＫＰＩは、町・町民が共に達成していくものがよいと考える。
P38ＰＦＩの導入に係るＫＰＩついて評価したいが、実際の受託等においては東京都心部の大手企業が多く、地元企業が参画することが難しい状況である。
松田町と金融機関等が連携した仕組みづくりを進め、地元企業が参画できるようにしていくことが大切である。

事　務　局：ＰＦＩやＰＰＰでの取り組み重要であると考えている。
ＰＦＩの先例である隣接する山北町では、民間企業の参入に向けた勉強会等を開催するなどの取り組み進められた。
地域企業が参入できる仕組みづくりやヒアリングの実施を考えている。

宇佐美委員：今後、議会や町民に計画を公表・説明していくことを想定すると、もっとわかりやすく、もっと松田らしさを示した方が良いと考える。
例えば、旧松田土木事務所の跡地を今後の人口増加ための種地等として計画で表現するなど具体的に示してはどうか。
また、この地域ではＰＦＩの事例が少なく、行政が主体的に取り組めないリスクがあり、難しいのではないかと考える。

事　務　局：計画の公表・説明については広報紙で行う予定で考えており、町民にもわかりやすい形で示していきたい。
議会に対しては、本日の審議会の意見を踏まえて修正し、提示していく予定である。

古舘　会長：ＰＦＩ事業を４件とするＫＰＩで大丈夫なのか。

本山　町長：ＰＦＩはあくまで手法であるので、具体的な取り組みとしての記載をする方が良いと考える。

飯野　委員：P46 の町外における特産品の販売額の増加とあるが、具体的な取り組みに係る記載が無いのではないか。

事　務　局：P46②の一つ目に一定の記載はあるが、町外の場所という視点で記載を改める。
なお、松田ブランド＝特産品としては考えていない。
具体的なところまでは決まっていないが、今後はＩＣＴも活用して進めていきたい。

宇佐美委員：P47 ホームページへのアクセス数に係るＫＰＩでは、具体の観光に関する情報が少ないので指標としてどうかと思われる。観光協会のホームページを強化する必要があるのではないか。
観光客宿泊者数は、受け皿を増やしていく必要があるので、２倍の設定は心配だ。入込客数で対応した方がよいかと思われる。

事　務　局：ホームページへのアクセス数については検証したい。
また、入込客については数値目標で掲げているので、宿泊者数としたところだが、民泊等の動向も視野に数値を検討する。

宇佐美委員：アクセス数を増やすのは簡単であるので、ＳＮＳ等で対応し、フェイスブックでの「いいね」にした方が良いのではないか。

松本　委員：P42 の定期外乗員数は計算として理解したが、具体的に施策を進めると定期内が増えていくのではないか。また、定期外の指標は観光分野で示してはどうか。

事　務　局：新松田駅の整備は計画期間内（平成 31 年度まで）の実施は難しいと捉えている。そのため、周辺環境等の整備を進めることが、交流人口の増加につながり、ひいては町の活性化、人口維持に係る都市基盤整備に位置付けられるという視点で整理したい。

飯野　委員：定期内も併せて指標化する、若しくは全ての乗員数としたらどうか。

松本　委員：定期内外の乗員数は概要を公表しているので活用して頂ければと思う。

久郷副会長：人口流出を抑え、若い世代の定住化促進を主流としてきているが、ＣＣＲＣの取り組み進めていくことはどう考えているか。
現在、神奈川県は高齢になっても活動できる社会づくりの取り組みを進めており、横須賀市等では具体の取り組みが位置付けられている。
そうしたなかで県西地域は消極的というイメージがある。

事　務　局：福祉的分野については、地域が主体となって支えあいや助けあいの取り組みを進めており、そもそも、地方部においては地域コミュニティのつながりが強くなっている。

久郷副会長：ＣＣＲＣは、東京圏から離れているところでの動きが多いが、県西地域は東京圏から一定の距離にあるため立地性で評価が高い。事業者が、施設立地に手を挙げることが必要となる。

西田　委員：海外（アメリカ）におけるＣＣＲＣでは、日本とは定住に対する意識に大きな差異がある。高齢者や若い世代と交流のできる場の提供や、高齢者が地域を盛り上げていける環境づくり・仕組みづくりが大切である。

飯野　委員：駅が２つ、病院、未利用地等を活用するときに、ＣＣＲＣも１つの手法・視点として捉えていければよいのではないか。

事　務　局：地域住民が、どれだけ盛り上がっていけるかと捉えている。今後の事業推進では、ＣＣＲＣの視点を踏まえて取り組んでいきたい。

(3)　その他について

・事務局（政策推進課）より加速化交付金についての説明を行う。

５．閉　会